化粧品受託製造産業欄

乳幼児に使えるＵＶミスト

ジャパンビューティが処方提案　肌でジェル化し液だれ抑制

化粧品ＯＥＭ／ＯＤＭのジャパンビューティプロダクツ（東京都中央区銀座、高木正好社長）は、肌に噴霧すると液状からジェル状に変化する日焼け止め処方「ノンケミカルジェリーＵＶミスト」の提案を強化している。紫外線吸収剤を使用せず、ミストの塗布しやすさとジェルの密着性を両立した処方で、乳幼児を含むファミリー向け製品などへの展開を図る。

同処方は、噴霧時には液状となり、肌に付着するとジェル状に変化する特性を持つ。従来の液状ミストで課題となる液だれを抑え、肌にとどまりやすくすることで塗布性を高めた。紫外線防御効果はＳＰＦ35・ＰＡ＋＋。同社独自の乳幼児モニター試験を実施し、１歳以上から使用できる設計としている。

処方開発では、紫外線散乱剤として配合する粉体の分散性や配合量を調整し、噴霧時の目詰まり防止と使用性の両立を図った。容器やポンプは一般的な汎用品にも対応でき、採用実績や試験実績のあるポンプを活用することで、商品化までの開発期間短縮にもつなげられる。すでに同処方を採用した製品の商品化実績もある。

「当社では、ＵＶ製品のＯＥＭに関する引き合いが増えており、ホームページ経由の問い合わせの４割強をＵＶ関連が占める。従来のノンケミカル処方への関心に加え、紫外線吸収剤の使用の有無にかかわらず、塗り心地などの使用感を重視する顧客も増えている。今後は、同処方のＳＰＦ値やＰＡ値を高めたタイプのほか、医薬部外品への展開や使用感を一段と向上させた処方など、ＵＶケア製品全体で複数の新製品開発を進め、顧客ニーズへの対応力を高める」（第一事業部企画営業課・谷澤万美子係長）。